



地域で守る「子供の安全」

平成25年8月22日

山本俊哉(明治大学理工学部 教授)

子供は、社会の宝・地域の宝 社会的弱者として保護の必要



幼い子供は、危険予知能力・危機回避能力が低い。

子供をとりまく地域環境の変容



子供を狙った犯罪・子供が巻き込まれる事故

学校

防犯教育・防犯訓練



地域

パトロール・見守り活動



極端

ムリ

ムラ

手間や負担がかかると長続きしない。
子供の健全育成を阻害しかねない。

「地域安全マップ」づくり：2つのタイプ

A 大人

点検して対策を講じるため



B 子供

危機回避能力を高めるため



ともすると、危険マップ作成？

子供の防犯対策

子供のために大人が考えて実施

犯罪 不安

自分自身よりも子供など弱者に

防犯活動の動機付けにはなるが、
自身の不安低減のための活動は、本末転倒。

リスク の評価

高頻度で軽微な犯罪は過小に
低頻度の重大な犯罪は過大に
評価する傾向 正しい判断を

情緒や信念に基づく防犯対策は実効性・持続可能性が担保されない。
データに基づくリスクコミュニケーションの重要性



安全



安心

並列して使われるが、
同じでない。何が違うか？

安心は、主観的な判断に依存している。

安心感は、信頼性と関係している。

不信感は、不安感につながる。

安全性は、客観的に測定可能。
絶対に安全ではない(被害0は不可能)

$$\text{被害のリスク} = \text{発生頻度} \times \text{ダメージの大きさ}$$

いかに発生頻度を減らすか。
かりに発生したとしても
いかにダメージを小さくするか。

重大事故の背景に数多くのヒヤリハット

重大事故: 1件

子どもの事故死: 1件

軽微事故: 29件

29件

外来受診の事故: 2,600件

軽微な事案
: 300件

家庭処置の事故: 10万件

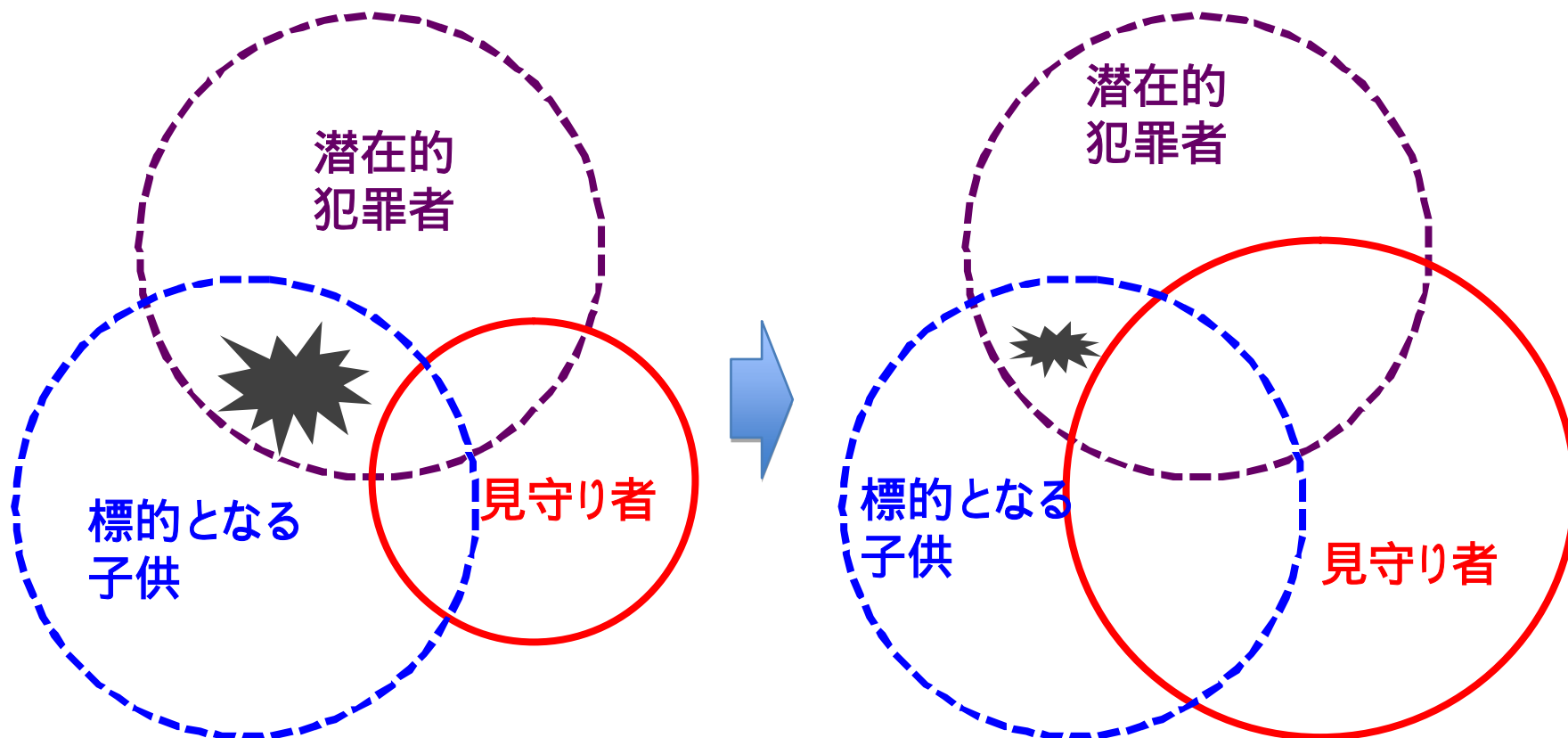
ヒヤリハット

無処置の事故: 19万件

300件

ハインリッヒの法則

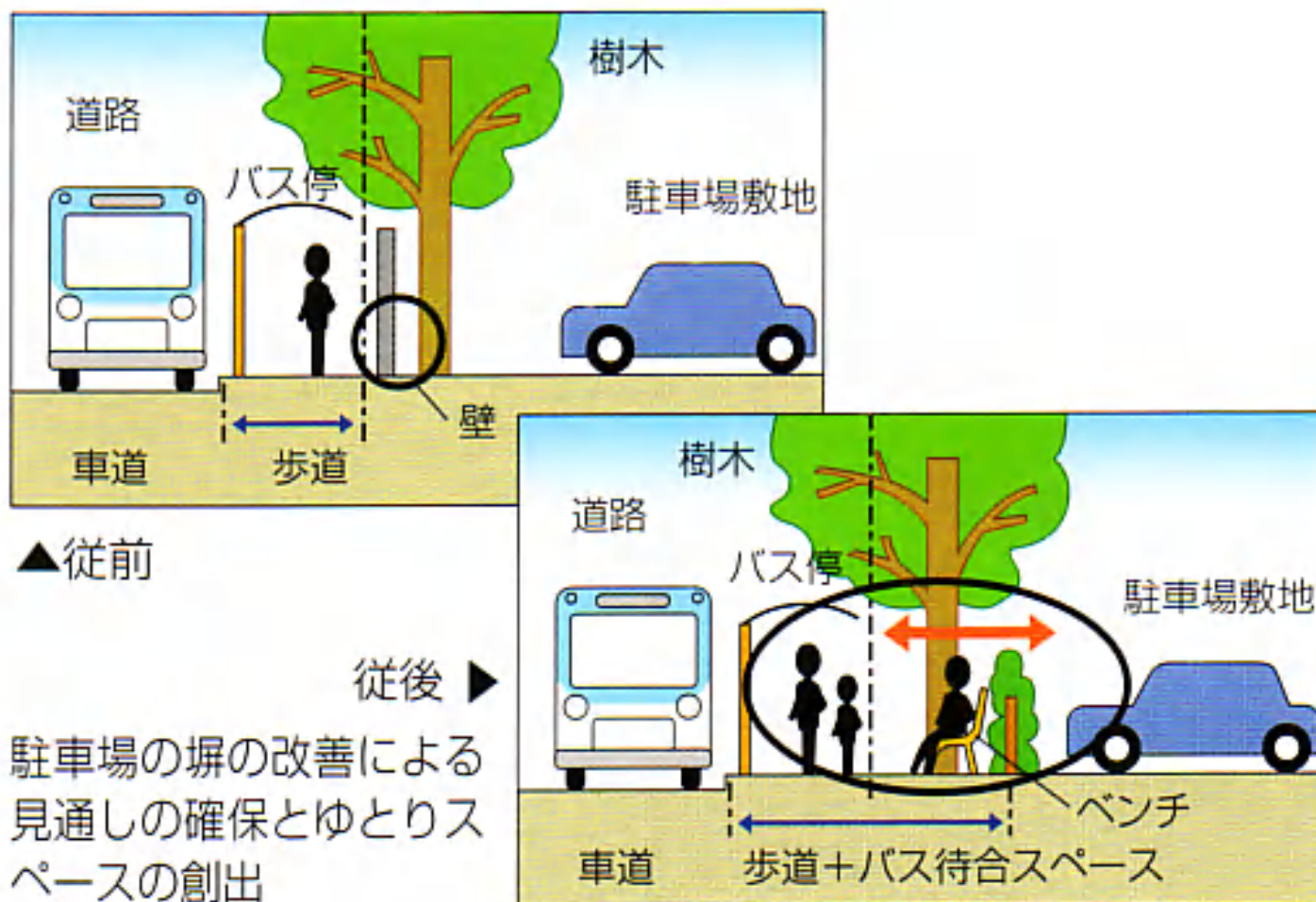
出典: 「子どもを事故と犯罪から守る環境と地域づくり」中央法規出版



犯罪発生の条件を説明した「日常活動理論」

「潜在的犯罪者」が「標的となる子供」に近づきやすい時間・場所
「見守り者」不在の時間・場所を少なくする工夫

ゆとりの空間の確保と兼ねて



通学路のクルマの速度と通過量を低減する



狭窄(きょうさく)



ハンプ(路面の凹凸)設置箇所

通学路の交通環境改善の社会実験(京都府亀岡市)

クルマがゆっくり走る道になれば、見守り量も増える。

プラス防犯

旭川市の近文あい運動

住民による下校時の見守り活動

最終目標

特別な見守り活動せずに
安全で安心な地域づくり

夏は「庭いじり」冬は「除雪」

見守り量 (100m単位)

調査員がすれ違った人の数

■集計表のイメージ

曜日	時間帯	道路番号					のべ調査員数
		①	②	③	④	⑤	
月	9~	1	6	4	2	1	2
	11~	3	2	2	2	1	3
	13~	4	1	2	4	1	2
	15~	1	1	-	-	-	1
	17~	-	-	-	-	-	0
火	9~	0	4	4	3	2	1
	11~	3	3	1	2	1	3

※調査できなかった道路は「-」と記入してあります。

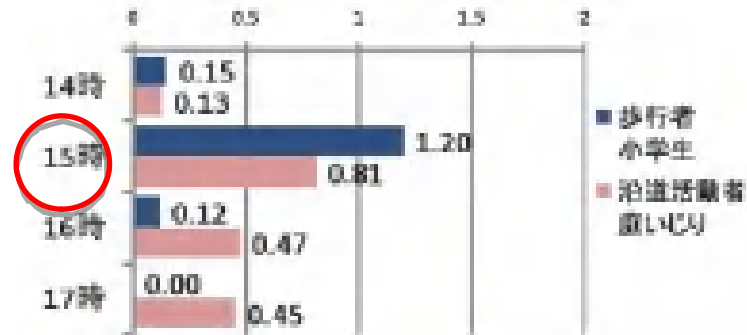


図1. 夏の庭いじりによるみまもり量と歩行者 (小学生)

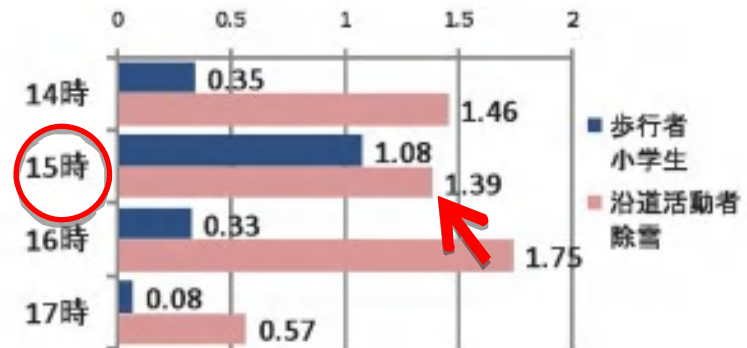


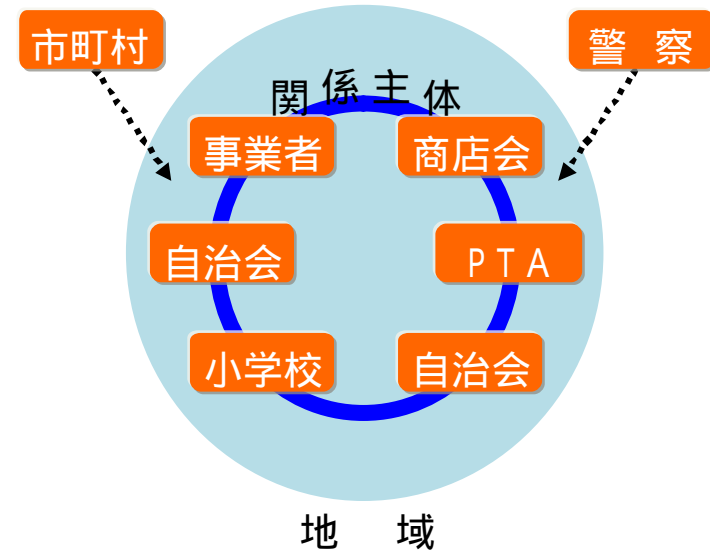
図2. 冬の除雪によるみまもり量と歩行者 (小学生)



子どもが花を植え、
高齢者が管理する

小学校区の関係者で話し合う

- 1 「何が問題か」を確認・点検する
- 2 各団体の取組みをリストアップする
- 3 役割分担と協力関係を確認する
- 4 できることから始める
- 5 取り組みの成果を評価する



＜鬼高小学校区における「これからの取組み」の項目と主たる実行主体(一覧表)＞

基本方針	取組みの内容	学校	PTA	自治会	商店会	警察	市
必要な情報を必要に応じて共有できるネットワークの形成	◇ 「ヒヤリハット情報」の提供	◎	○				
	● 地域の安全点検マップづくりの実施	◎	◎	○			○
	● メールによる保護者への情報提供	◎	○				○
	◇ 地域の犯罪発生状況の情報の共有			◎		○	
	◇ 市内の犯罪発生状況の情報の共有					◎	◎
	● 防犯対策に関する情報の共有	○	○	◎		○	
	● 防犯灯・街路灯に関する情報の共有			◎			◎
地域における子どもたちの見守り体制の充実	◇ 登下校時の見守り活動の継続	◎	◎				
	◇ 夜間のパトロール活動の継続			◎		○	
	◇ 学校における安全教育の推進	◎				○	
	● 地域における安全教育の推進	○	◎	○			◎
犯罪が起こりにくい安全で安心な公共空間づくりの推進	◇ 安全で安心な学校づくり	◎		◎			
	◇ 活動拠点となる自治会館の有効活用			◎			
	● 活動拠点となる商業施設の有効活用				◎		
	◇ 公園・駐車場の安全点検活動の推進			◎			
	◇ 店舗オープンスペースの安全性確保						◎



ハロウィンイベントで こども110番の家めぐり



地元でとれたカボチャを活用



出典: 鎌ヶ谷市青年会議所HP

国際基準の安全な地域づくり・学校づくり セーフコミュニティ・インターナショナルセーフスクール

地域ぐるみ・学校ぐるみの**安全性向上プログラム**の国際認証制度
データに基づき、従来の枠組みを越えて、安全性を総合的に高める

2012 TOSHIMA CITY



セーフコミュニティ
国際認証都市・豊島区

亀岡市
十和田市
厚木市
箕輪町
豊島区
小諸市



大教大附属池田小
厚木市立清水小
豊島区立朋友小

担い手となる「人づくり」も重要な課題



PTAと自治会と商店会が共同してすぐ
にできること あいさつ運動



駅頭での高校野球部の挨拶運動

できることから始める

あいさつを交わす

相手の顔を確認するため、
潜在的犯罪者は犯行をひるむ

近所に知り合いが増える
地域における絆を深める

子供の健全育成にも繋がる